

## 【95】スエズ運河渡河作戦

スエズ運河というのは、アジアとアフリカの境界のエジプトのシナイ半島の付け根の地峡に設けられた、長さ 170km もの長い人工的水面で巾は 200m くらいです。一帯は雨量が殆んどゼロ（西 100km のエジプトの首都カイロで年 35mm）の砂漠で、運河は 19 世紀に砂地をひたすら掘削して建設されたので、運河の東岸には高さ 10～20m の堤防上の砂山が延々と続いているのです。これは巧まずして、戦車や車輛の通行を困難にする一種の城壁になっています。

1967 年、イスラエルとエジプトの第 3 次中東戦争後、スエズ運河をはさんで、東岸にイスラエル、西岸にエジプトが対峙して睨みあっていました。1973 年 10 月にエジプト側からの攻撃で第 4 次中東戦争が勃発し、それ以前は常にイスラエルの勝利だったのが、今回は初めてエジプトが勝利しました。

このとき、エジプト側がとった作戦は、イスラエル側の警戒のすきを突き、運河にポンツーン利用の仮橋を架け、予想外の方法で運河沿いの堤防状の砂山を短時間で切り崩し、戦車部隊を対岸へ渡しイスラエル側に攻め込んだのです。エジプト側がとった予想外の方法とは、西ドイツ製の高層ビル用の高圧消火ポンプで砂山を洗い崩し、ブルドーザーなどの機械施工より短時間で砂山を開削し通路を通したことです。イスラエルは、消火ポンプをエジプトが輸入していたことは知っていたようですが、まさか戦争目的とは思わなかったようです。

この話しは、1999 年 12 月の日本河川協会の河川文化を語る会で、現役の防衛大学の教授の「スエズ運河渡河作戦」という講演でお聴きしたのですが、河川や水に関心のある者にとっては臨場感があって、大変面白い話しでした。